

地方創生推進タイプ (先駆型・横展開型・Society5.0型)

申請者	佐賀県	初回採択回	令和2年度第1回募集
事業計画期間	R2-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	630,618千円（175,650千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	①トップアスリートの育成により、多くの有望選手が佐賀で学びたいと思う ②仕事とスポーツを両立したライフスタイルが浸透し、スポーツ経験のある社会人が佐賀で暮らしてみたいと思う ③多くの企業がスポーツビジネスに参入し、新たなサービスや雇用の創出により、起業や投資意欲のある人が集まる地域になることで好循環を創り、佐賀にヒト、モノ、カネの流れがスポーツを切り口に生み出される姿を目指す。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	(1) 人材育成事業 150,903千円 佐賀から世界に挑戦するトップアスリートの育成のため、一流指導者等から指導を受ける環境を整備する。 (2) 就職支援事業 11,802千円 アスリート・指導者が、県内企業に就職し、競技・指導を続けるため、企業とアスリート・指導者をマッチングする。 (3) 広報事業 12,945千円 SSP構想の県民・企業への周知を図る。		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①県外からの流入アスリート数（+190人） ②SSP事業提携企業数（+115社） ③アスリート雇用エントリー企業数（+57社） ④SSPアスリート認定者数（+55人）	関連URL	(交付金の具体的使途・実施体制)調整中 (効果検証) https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

申請者	佐賀県佐賀市	初回採択回	令和2年度第1回募集
事業計画期間	R2-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	274,020千円（39,000千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	○中心市街地に都市機能が集積されたコンパクトかつ拠点性の高い都市構造を確立する。 ○中心市街地における経済活動（消費行動）の増進につなげる。 ○中心市街地の活性化（エリアの価値＝地価の向上）を達成する。		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○遊休不動産の所有者・活用希望者へのワンストップ型支援 ・支援体制の運営（委託料）2,900千円 ○ICT等を活用した来街者の回遊・消費行動の促進 ・回遊・消費行動促進（委託料）4,900千円 ・人流調査（委託料）3,500千円 ○SAGAスマート街なかプロジェクト（官民連携実証プロジェクト、市民参加型ワークショップ、街なかデータ利活用モデル） ・各種プロジェクトの展開（委託料）14,800千円 ○中央大通り沿線における土地利用の促進 ・沿線民地の活用策検討支援（委託料）3,400千円 ・建築構想の立案支援（補助金）6,000千円 ○中央大通りにおける民間主体の賑わい創出活動の開催支援 ・イベント開催支援（補助金）3,500千円 街の“空白”を“機能”に変える 街なか遊休不動産活用促進事業 “機能”の魅力を引き上げる ICT等を活用した来街者動向調査・回遊等促進事業 “機能”の魅力を引き上げる 未来技術を活用した街なかブランディング事業 中心市街地における人の流れを生み出す効果的な導線（連続性）づくり事業 地方創生推進交付金事業 “機能”と“機能”を結びつける 中央大通りにおける魅力ある土地利用リーディング事業 “機能”と“機能”を結びつける 中央大通り賑わい創出活動支援事業 佐賀市 SAGA CITY ©Saga City All Rights Reserved		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①中心市街地居住者数（+206人） ②中心市街地の地価公示の平均値（+2,000円/㎡） ③中心市街地の主要商店街通行量（+36,850人） ④本事業に基づく遊休不動産の活用物件数（+15件）	関連URL	https://www.city.saga.lg.jp/main/95355.html

事業概要【唐津エリアの未来を紡ぐ唐津プロジェクト推進事業】

推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	453,833千円 (148,340千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的 (効果)	唐津エリアにおいて、唐津エリアの真の豊かさ、素晴らしさを磨きあげるとともに、地域の自発的・主体的な取組をサポートする「唐津プロジェクト」を推進することにより、様々な地域で様々な光が輝き、多くの人々が唐津エリアを訪れ、人と人とが会う交流を生み出す好循環を創出する。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	1 全国の武将が集った名護屋城跡・陣跡の磨き上げによる文化観光の推進 ・大茶会イベントの開催、「黄金の茶室」・「草庵茶室」展示運営など (委託料など) 64,056千円 2 水産物の安定供給 ・漁業のスマート化推進にむけた漁船による実証試験、唐津産水産物PRキャンペーンなど (委託料など) 47,391千円 3 名護屋城博物館常設展示リニューアル ・名護屋城博物館の展示制作・施工、パンフレットデザイン等 (委託料など) 36,893千円	 	
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①名護屋城博物館の入館者数 (+35,000人) ②唐津エリアの新規漁業就業者数 (+30人) ③唐津エリアにおける観光客数 (+1,684千人)	関連URL	(交付金の具体的使途・実施体制) 調整中 (効果検証) https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

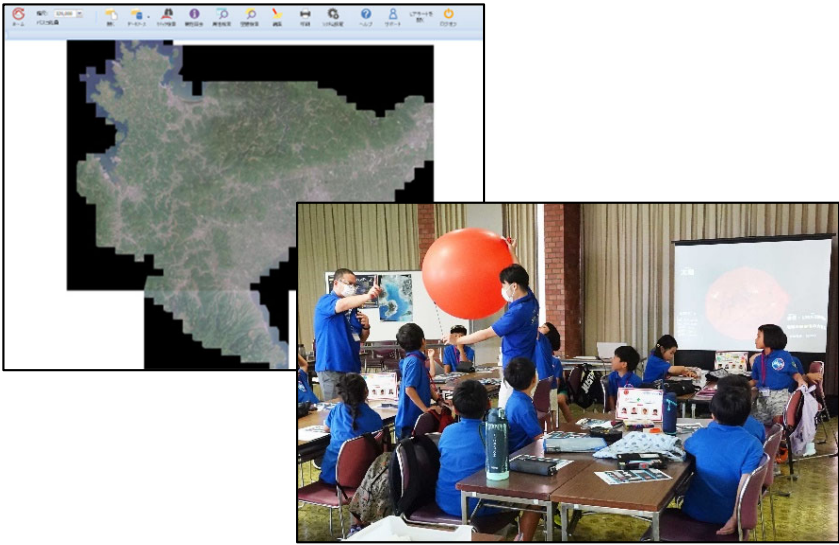
事業概要【佐賀の本物の魅力醸成・発信プロジェクト】

推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	386,348千円 (136,263千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	農林水産分野
目的 (効果)	数多くある佐賀の「本物」に磨きをかけ、それらを東京オリパラを契機として関係を深めた連携相手国とのネットワークを活用することにより、国内外へ効果的に発信する。コロナ禍を経て普及したオンラインやICT、SNS、WEBサイト等のデジタル技術を活用し、個々の県産品が持つ魅力をストーリー性のある内容でPRすることで佐賀の魅力を的確に発信する。国内外で佐賀ファンを創出し、その反響・反応が地元に戻ることににより更に「本物」に磨きをかけ、機運を高める好循環を創出する。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○重点連携国情報発信事業(委託料等) 40,450千円 ○佐賀牛によるEU市場参入プロジェクト (委託料等) 12,030千円 ○佐賀ん酒体験空間「SAGA BAR」推進事業 ・飲食店等とのタイアップ、商標を活用した民間主導のPR、 SAGA BAR (@サガハツ) を拠点としたPR (委託料等) 30,502千円 ○食材と器と料理人が織りなす食文化創造事業 ・産地ツアーやレストランイベント等の実施、レストラン経営等に関するノウハウ支援、料理人等が交流できるプラットフォームの形成 (負担金) 37,832千円 ○EU・アジア食市場開拓ハンズオン支援事業 (委託料等) 15,449千円		   
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①県内酒蔵の清酒・焼酎・リキュールの輸出数量 (+ 26キロリットル) ②県産食材及び器と国内外レストラン (シェフ) との新たな取引件数 (新規顧客契約件数) (+ 35件) ③「SAGA BAR」常設店舗及びイベントへの国内外からの来店者数 (延べ人数) (+ 34,000人)		関連URL (交付金の具体的使途・実施体制) 調整中 (効果検証) https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

事業概要【JAXA連携を活かした宇宙関連産業創出、人材育成事業】

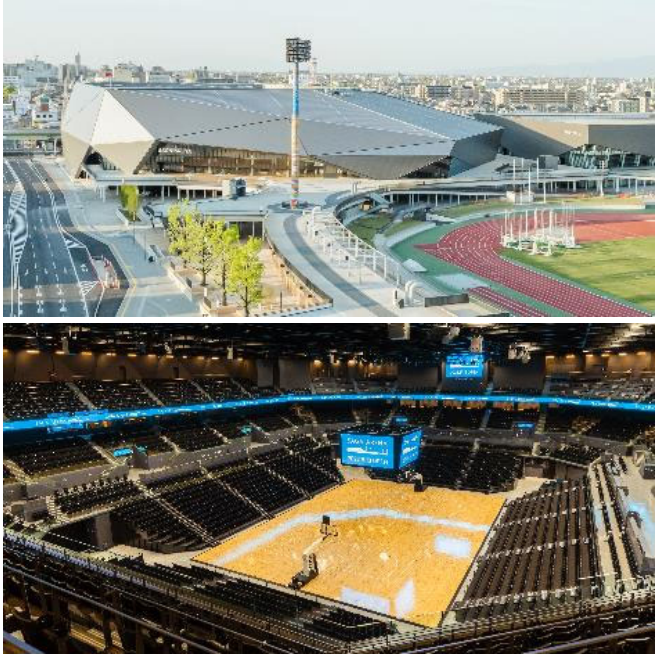
推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	230,840千円 (47,096千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	・佐賀県での宇宙関連産業の創出、佐賀県から宇宙（世界）で活躍する人材の育成を通じた地方創生を図る。 ・県内での宇宙関連産業に関する構造認識及び宇宙利用に関する認知度を向上させる。 ・佐賀県立宇宙科学館を拠点とした宇宙教育や佐賀県への誇りや愛着を醸成する取組みを通じて、次代を担う子どもたちの人材育成を図る。		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○宇宙ビジネスを起点として、佐賀県の地域課題を解決するとともに、新たな市場として宇宙関連ビジネスを創出するために、多様なプレイヤーが共創し議論が生まれる場や社会実験の場を提供する。 ・委託料 17,000千円 ○宇宙を教材に佐賀や地球について関心を誘うカリキュラムを通じて、想像力、判断力、表現力を磨き、好奇心を掻き立て未来へチャレンジする心を育み、人材の育成につなげる。 ・JAXAGA SCHOOL小中学生の部経費（委託料 22,000千円） ○佐賀における宇宙活用や宇宙産業創出・育成を考え、高校生が超小型人工衛星「キューブサット」の運用を行う。 ・JAXAGA SCHOOL高校生の部経費（委託料 8,096千円） 人工衛星データ利活用  JAXAGA SCHOOL開催		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①佐賀県立宇宙科学館の入館者数（+115,000人） ②宇宙技術を活用した地域課題解決のアイデア創出・可能性検証数（+15件）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制）調整中 （効果検証） https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

申請者	佐賀県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	47,344千円 (20,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	佐賀県は、自家用車依存度が高く、多様な手段での移動が意識されていない状況にあることから、「歩きたくなる」施設・設備の整備、商店や商工団体・地域団体等と連携したまちなかを歩く動機づけとなる仕掛け及び地域の魅力（観光、文化、歴史など）の向上につながる活動を通して、県民の歩くライフスタイルへの行動変容を促す。		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○パーク～佐賀駅～城内エリアを歩いて結ぶ仕掛けづくり SAGAサンライズパークと城内エリアが連携し、「歩く」に関連した情報発信を行うと共に、SAGA2024の開催期間中に、街歩きイベント等を開催し、まちなかに足が向く仕掛けを展開していく。（委託料等） 20,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①「公共交通機関を以前と比べて利用するようになった」と回答した人の割合（+24%） ②県内主要6駅の乗車人員実質増加率（+306%） ③アプリ「SAGATOCO」登録者の1日あたりの平均歩数（+811.8歩）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制）調整中 （効果検証） https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

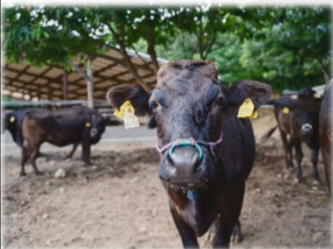
事業概要【SAGAアリーナを核とした交流人口の増加と地域活性化事業】

推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	354,934千円 (69,700千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的 (効果)	・SAGAアリーナのオープンをきっかけに、新たな交流人口の増加を図り、飲食、宿泊などの観光需要の増加を図る。 ・SAGAアリーナで、これまで佐賀県になかった新しいイベントや新たなビジネスの創出を図る。		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○「首都圏・海外営業及び招聘」及び「県内企業営業」 9,483千円 ・主催者招聘経費 2,407千円 ・誘致資材製作及び体制構築経費 7,076千円 ○コンベンション等誘致PR費 44,923千円 ・コンベンション等開催支援補助 35,460千円 ・広報・主催者支援経費等 9,463千円 ○SAGAサンライズパークアプリ開発費 15,294千円 ・機能追加の開発・実装 15,294千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①SAGAアリーナの観覧者数 (+963,400人) ②アリーナの興行数 (+145件) ③SAGAサンライズパークの利用者数 (+177,470人)	関連URL	(交付金の具体的使途・実施体制) 調整中 (効果検証) https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

事業概要【稼げる“さが”農業推進プロジェクト】

推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	566,511千円（199,871千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	・収益性の高い園芸農業の振興を図る ・佐賀牛の生産基盤の強化を図る ・農村ビジネスの推進により農業者の経営力の強化を図る ・県産農産物のブランド力の向上と販路の拡大を図る		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○ 園芸の生産拡大 ・消費者に選ばれる高品質ブランドイチゴ「いちごさん」の生産・流通技術の確立（需用費その他等）5,683千円 ・新たな露地野菜の産地づくりに係る実証試験圃の設置（需用費その他等）4,722千円 ・園芸団地の整備・運営の支援（補助金）14,864千円 ○ 佐賀牛の生産基盤の強化 ・現場後代検定（需用費その他、役務費、委託料）37,048千円 ○ 農村ビジネスによる経営の多角化 ・コーディネータ及びクリエイターによる農村ビジネスの成功事例の創出（委託費等）41,951千円 ・農産加工品の開発や農産加工施設、農家レストラン、農家民宿等の施設整備に対する支援（補助金）16,000千円 ○ 県農業産物のブランディングと販路拡大 ・「いちごさん」「にじゅうまる」のブランド力向上に向けた情報発信やイベントの実施（委託料、需用費その他等）30,175千円 ・生産者と実需者や消費者とのマッチング（補助金）15,735千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①いちごの10a当たり収量（+256kg） ②農村ビジネスの新たな取組件数（+75件） ③肥育素牛の県内自給率（+0.92%）		関連URL (交付金の具体的使途・実施体制)調整中 (効果検証) https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

申請者	佐賀県嬉野市	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	457,998千円 (100,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・Society5.0型	事業分野	観光分野
目的 (効果)	・2022年度に開業した新幹線駅と道の駅の同時開業を、交流人口の拡大に活用しようと企てる取組み ・旅マエの興味喚起や旅ナカの回遊喚起、旅アトの再訪問意向を高めるVR・AR技術を活用したサービスの提供 ・旅ナカの来訪者の移動を支えるモビリティサービスの提供 ・サービス利用時に取得したデータを蓄積、新たな観光戦略等への利活用を図るデータプラットフォームの構築		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	①嬉野の魅力を全国・全世界に発信する環境づくり ・デジタルモール・バーチャルモールの構築 (32,700千円) ・デジタルモール・バーチャルモールのコンテンツ作成 (11,400千円) ・来訪者と生産者をオンラインで結ぶコミュニケーション環境構築 (8,900千円) ②来訪者の移動を支えるモビリティサービス ・駅前と中心部を結ぶ自動運転サービスの構築 (36,000千円) ③5G技術等を活用した各種データの収集・提供 (6,000千円) ④協議会の運営・支援 (5,000千円)  ▲バーチャルモール嬉野  ▲VRゴーグル体験  ▲LINEによる情報発信  ▲街中を走行する自動運転車		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①観光客数 (+400,00人/年) ②観光HPアクセス数 (+16,000件/月) ③自動運転利用者数 (+1,400人/月) ④18～22歳の定住意識 (+6%)	関連URL	https://www.city.ureshino.lg.jp/s-hisei/keikaku/_24664/_27940.html

申請者	佐賀県嬉野市	初回採択回	令和4年度第2回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	28,000千円 (10,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	・自分たちの住む街の未来について語り合い共創できる環境を作り出す ・様々なステークホルダー同士の繋がりをつくることで、共創の力を高める ・様々な課題について語り合うことで、女性の活躍を推進し、女性に選ばれる街へ変化していくことで都市運営を持続可能なものにしていく		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○街の未来について対話する場「フューチャーセンター」に、アスリートの持つリーダーシップや繋げる力、情報拡散する力を加えた「スポーツフューチャーセンター」を運営し、フューチャーセッションを開催する。 ・フューチャーセッション開催経費（委託料）10,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①20代～30代女性の人口減少率の改善（+2.0%） ②スポーツフューチャーセンターへの参加者数（+210人） ③スポーツフューチャーセンターで新しく作られたもしくは改善された施策の数（+8施策） ④20代～30代の定住意識（+2%）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） 調整中 （効果検証） 調整中

事業概要【「為朝伝説」を活用した観光資源の掘り起こし磨き上げ事業】

推進当初

申請者	佐賀県上峰町	初回採択回	令和4年度第2回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	90,000千円 (20,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的 (効果)	・「源為朝」の地域資源としての更なる価値向上と、町内中心市街地の観光資源化		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	・為朝関連グッズの開発製作費 20,000千円 町の新たな特産品として、為朝を使ったグッズやお土産の商品開発を行う。 【内訳】 ・グッズ及びお土産商品の企画、開発 20,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①沿道への民間事業者の進出数 (+ 5 件) ②観光資源「源為朝」関連グッズの開発数 (+ 6 件) ③観光資源「源為朝」関連グッズのふるさと納税返礼品申込者数 (+ 450件)		関連URL https://www.town.kamimine.lg.jp/kiji003150/index.html

事業概要【SAGAの未来を支える担い手確保プロジェクト】

推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	304,851千円 (116,904千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	・都市圏から、人の呼び込みを図る ・佐賀の産業を支える担い手の確保を図る ・地域づくり、地域活性化への支援を図る		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○佐賀県における暮らしや仕事の情報に一元的に触れられる移住フェアの開催（委託料）12,363千円 ○佐賀県から若者の人材流出が多い都市圏において、佐賀の仕事、暮らしの素晴らしさを伝える相談会を開催（負担金）15,538千円 ○地域における新規就農者の支援体制の構築を図りつつ、幅広い就農ルートから数多くの新規就農者の確保、定着を支援（補助金（協議会等組織））5,634千円 等 ○農業への企業・法人等参入への理解醸成、参入候補となる農地情報の整理、企業・法人への情報発信（委託料）3,060千円 等 ○労働力確保支援のための体制整備、農福連携の定着・推進や外国人材活用の推進など多様な人材の活用促進（補助金、委託料）1,000千円 ○県内工業系高校生などを対象に、建設業の出前講座や体験会、魅力発信の実施（報償費、費用弁償、需用費等）667千円、（負担金）5,948千円 等 ○経営の高齢化などの課題がある県内中小企業等の円滑な事業承継を実現するためのシンポジウムや情報発信の実施（委託料）2,000千円 等 ○中山間地域の集落や産地等が主体的に行う「農業・農地を守る取組」、「農業所得を向上させる取組」「地域の活性化に向けた取組」に対して支援（補助金（市町））738千円 等 ○精力的に地域づくり活動を実践している人材（ローカリスト）や地域づくりに興味のある人材（ネクストローカリスト）との交流会の開催等により地域づくり活動のきっかけを創出（委託料等）8,387千円		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①県の支援策を活用した県外からの移住者数（+95人） ②しごと相談室を通じたUJIターン就業数（+16人）		関連URL （交付金の具体的使途・実施体制）調整中 （効果検証） https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html



事業概要【未来創造型のチャレンジ研究を主軸とした大学連携推進事業】

推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	235,206千円（75,402千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的（効果）	大学との連携を早急に強化することにより、佐賀県の施策を効率的に進める上で県が抱える課題やニーズに合った技術研究として、県民の安全・安心な地域づくりや産業の振興などにつながるだけでなく、そこで培われた新たなシーズが民間企業との共同研究や事業の実装に発展して新たな産業を生み出す。 また、これらの地域貢献や地域課題の解決に資する取組を県内外へ幅広く発信していくことで、進学希望の高校生などにとっての高等教育機関の魅力向上、県内高等教育機関をハブとした若年層の活躍の場の拡大、キャリア向上を志す若者の佐賀への定住促進などに繋がり、県内高等学校から自県大学への進学率の向上にも寄与していくことを目指す。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	1 佐賀大学等との連携事業の取組 ①R5年度からの継続事業（委託料） ・県提案型 7 件程度 19,250千円 ・学内公募 5 件程度 15,000千円 ②R6年度からの新規事業（委託料） ・県提案型 7 件程度 9,250千円 ・学内公募 5 件程度 15,000千円 2 コンベンションの開催（委託料） コンベンション開催経費 16,902千円 		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①県内高等教育機関との連携事業数（延べ新規取組）（+39件） ②本申請事業を通じた研究テーマの本格的な社会実装や事業化、若しくは産学官連携等に着手した件数（+2件） ③県内高等学校から自県大学への進学率の向上（+2.3%） 関連URL (交付金の具体的使途・実施体制)調整中 (効果検証) https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html		

事業概要【文化芸術に新たな息吹を吹き込む佐賀さいこうプロジェクト】

推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	203,979千円（75,699千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的（効果）	少子高齢化が進む中、地域に活力をもたらすためには、交流人口を増やしていくことが重要。佐賀の豊かな歴史的、文化的な魅力は、移住者や観光客を引き付ける大きなポイントであることから、これらを磨き上げることで、その素晴らしさを県民のみならず広く全国に発信し、地域づくりの根本となる故郷への誇りや愛着、郷土愛を育み、ひいては交流人口を増やし佐賀のまちに活力をもたらす。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○県内各地で行われている伝承芸能を“カッコいい映像コンテンツ”として広く情報発信するとともに、新たに取材・撮影して映像コンテンツを制作することで、地域の誇るべき宝として次世代に継承していく気運を醸成する。 ・映像制作、配信（委託料）6,147千円 ○県内で開催する文化芸術事業を公募し、アドバイザリーボードによるアドバイスやネットワーク支援等の磨き上げを行う。 ・フェスや公演の開催（委託料等）40,635千円 ○公の施設の一体的なブランディングや磨き上げを行うための戦略やコンテンツを制作する。 ・ブランディング戦略、コンテンツ制作等（委託料）17,358千円  伝承芸能の情報発信・映像制作 公の施設の磨き上げ 公演等の開催		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額総額（+25.2億円） ②宿泊数（+57千人） ③佐賀県の文化的、歴史的な魅力、価値を感じる県民の割合（+19.5千人） ④公の施設の来館者（利用者）数（+30千人）		（交付金の具体的使途・実施体制）調整中 （効果検証） https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

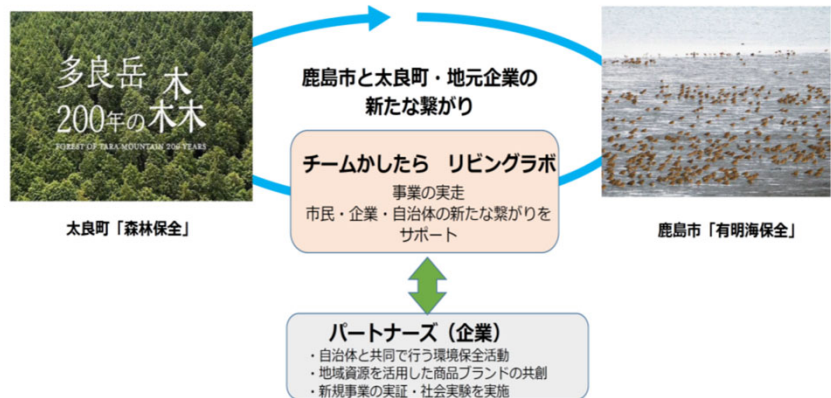
事業概要【社会増加県へ 子育てし大県”さが”×DI人材育成・地元循環モデル構築プロジェクト】

推進当初

申請者	佐賀県	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	173,994千円 (50,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	本県独自の教育プログラムを開発、新たな価値を創造する学びを提供することで、佐賀から産業を変革するデジタルイノベーション人材（以下「DI人材」という）が、佐賀で活躍するDI人材の地元循環モデルを構築し、社会増加県を目指す。		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	○佐賀県DI人材育成事業 地元企業・大学・高等専門学校連携によるDI人材育成プログラムの開発を行い、高校生が「SAGA DI（デジタルイノベーション）Lab」において伴走コーチとともに、DIカリキュラムを学ぶことで、県内のDI人材循環モデルを構築する・プログラム制作等を行う 委託料等 46,817千円 ○佐賀県高校生DI選手権大会開催 高校生がLabで学んだデジタル技術をもとに成果発表や知識・技能を競う「佐賀県DI選手権大会」を開催する 委託料等 3,183千円 <DI人材の育成> 		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①地域のUIターン数（+585人） ②SAGA DI Lab参加者数（+150人） ③初年度に受講する「ベーシックコース」の修了者数（+135人） ④当該事業修了者の情報系の高等教育機関への進学者数・情報系職種への就職者数（+40人）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） 調整中 （効果検証） https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html

事業概要【チームかしたら ローカルSDGs推進事業】

推進当初

申請者	佐賀県鹿島市、太良町	採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	交付対象事業費	51,900千円（21,300千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的（効果）	・ローカルSDGsを推進するため、「チームかしたら リビングラボ」を開設し、官民連携したまちづくりを行う。 ・デジタルを活用した第一次産業の収入増とレジリエンス向上のための事業		
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR6年度事業費	様々な主体が協力し合い、豊かな自然資源を持続可能な形で活用することで、経済・社会への好循環を生み出し、自然環境を維持・回復していくローカルSDGsを実現する。  多良岳 木 200年の木々 太良町「森林保全」 鹿島市と太良町・地元企業の新たな繋がり チームかしたら リビングラボ 事業の実走 市民・企業・自治体の新たな繋がりをサポート 鹿島市「有明海保全」 パートナーズ（企業） ・自治体と共同で行う環境保全活動 ・地域資源を活用した商品ブランドの共創 ・新規事業の実証・社会実験を実施		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①チームかしたらリビングラボから生まれたローカルSDGs事業（+15件） ②肥前鹿島干潟SDGs推進パートナーの企業数（+20社） ③新事業における新規雇用者数（+4人） ④太良町有林クレジットの販売の収入（+6,000,000円）	関連URL	https://www.city.saga-kashima.lg.jp/ （令和6年6月公表予定）

事業概要【鹿島市シビックプライド醸成事業】

推進当初

申請者	佐賀県鹿島市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	21,320千円（13,090千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	市制施行70周年の節目を契機にシビックプライドを醸成する取組を推進する。この取り組みにより鹿島に対する誇りと鹿島に住む一住民として地域の発展に関与する意識を向上させる。 - 若い女性を中心とした「リビングラボ」の中で、鹿島市の特長・魅力を訴求、情報発信。 - 連携協定を締結している報道機関（出版社・新聞社）とともにデジタルを始めとしたさまざまな媒体を使った効果的な情報発信を行い、都市圏へ情報発信することで、鹿島出身者の関心をひき、ふるさと納税の増加による資金の流入を目指す。		
事業概要・主な経費	1. 鹿島シビックプライド醸成キャンペーン「We Love かしま」 ①インナープロモーション「鹿島への愛と意思が伝わる」情報発信 ・リビングラボ取材費150千円 ・「人こそが鹿島の魅力」市民目線の鹿島BOOK作成委託料5,600千円 ②アウタープロモーション ・鹿島の水を全国区に！官民共創プロジェクト委託料ほか1,150千円 ・広報・PR動画作成委託料1,500千円 ③その他 ・まちづくりアドバイザリー業務340千円 2. 住民参加型イベント ・イベント委託料ほか 4,150千円 3. SDGs普及啓発事業 鹿島で行われた最先端技術マッチ ・謝金など 200千円 シビックプライドの醸成 → シティプロモーション展開 → 関係人口増加 移住・定住へ 鹿島市の良さを実感する 鹿島市に関わりのある人 ↑ 市 ↓ 関わりのない人 関わりたくない 行ってみたい 帰りたい ↑ 発信 インナープロモーション ↓ 発信 アウタープロモーション 良さを伝えたい 教えたい ※経費内訳はR6年度事業費		
KPI	①地域へのUIターン数（+30人） ②自慢できる魅力がある市民の割合（+23%） ③中高生の高校・大学卒業後に何年か市外に住んだあと鹿島市に住みたい人の割合（+25%） ④鹿島市の認知度（+45%）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制・効果検証） https://www.city.saga-kashima.lg.jp/

18

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)

申請者	佐賀県唐津市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,000,000千円 (208,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	老朽化が著しかった唐津曳山展示場の改築により、ユネスコ無形文化遺産である唐津くんちの曳山を保存・展示するに相応しい新曳山展示場を整備し、デジタル技術を取り入れた効果的でインパクトの高い情報配信を行うことで、新たな唐津の歴史・文化・まちの拠点をつくるもの。		
整備内容・ 利活用方策	新曳山展示場はくんちシアターやくんち体験コーナーなど、デジタル機能を活用しながら現代のニーズに対応する展示手法を採用し、ユネスコ無形文化遺産である唐津くんちの曳山行事を紹介するに相応しい機能を持つ展示場の整備を実施するもの。 QRコードを活用した多言語表記への対応による曳山の詳細解説や体験施設で映像とエフェクトを通して、施設を訪れた方に唐津くんちの曳山巡行を実際に体験していただくなどにより、唐津くんちを広く国内外に発信していく。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 200,000千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【展示制作費】 展示制作費 8,000千円 ●令和6年度補助対象事業費 建築工事費、展示制作費 計 208,000千円		
KPI	①地域における観光消費額（+501,000千円） ②新唐津曳山展示場（仮称）の入場者数（+56,647人） ③新唐津曳山展示場（仮称）デジタルスタンプラリーのチェックイン人数（+25,000人） ④新唐津曳山展示場（仮称）の入場者におけるくんちシアターと体験コーナーへの入館率（+90%）	関連URL	調整中



事業概要【道の駅「かみみね 為朝市場（仮称）」地域振興施設整備事業】

拠点当初

申請者	佐賀県上峰町	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,000,000千円(910,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	道の駅において地元農産物の生産者にとって安定的な販路を確保するとともに、集荷、加工、販売までを一貫して行うモデルケースの構築、消費者ニーズの把握により、農業所得の向上や担い手の育成・確保、地産地消を促進することで、地域経済の好循環と美しく活力ある魅力的な農村の実現に寄与する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	地元農産物・加工品の販売施設、加工施設、レストランなどの機能を持つ道の駅（地域振興施設）を整備し、農業経営の効率化と域内経済循環を促進する。 【建築物本体工事】 1,109,942千円 【建築物と不可分な設備工事】 539,400千円 【その他費用（管理費等）】 280,655千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①年間直接販売額（+284,227千円） ②特産品等加工施設で開発された商品数（+15個） ③認定農業者増加数（+3経営体） ④1経営体あたりの農業産出額（+9000千円）	関連URL	https://www.town.kamimine.lg.jp/kiji003150/index.html

地方創生拠点整備タイプ (補正予算分)

申請者	佐賀県	採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6年度	交付対象事業費	964,700千円
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（補正予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	日本最大級の弥生時代の集落遺跡を有する吉野ヶ里歴史公園において、日本を代表するアウトドアメーカーである株式会社スノーピークとの官民連携事業により、歴史と自然と人をつなぐ交流拠点施設や、民間投資による宿泊施設等を整備し、弥生時代の歴史を見るだけでなく実際に体感しキャンプができる唯一無二の公園として公園の価値を高め、人や物の交流を拡大させ、新しい人の流れをつくる。		
整備内容・ 利活用方策	交流拠点施設を官民連携により整備し、公園内の周遊、地元と連携した農林水産物や製品の活用・販売、地元観光施設等への周遊の促進、さらには、デジタル技術を活用したリモートワーク環境やスマートチェックインゲートの整備により、公園の価値を向上させ、交流人口を増加させる。 ・交流拠点施設の整備 902,000千円 - うちリモートワーク等環境整備 540千円 ・電動カート導入、倉庫等整備 22,700千円 ・スマートチェックインゲート設置 40,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①神埼・吉野ヶ里エリアの観光消費額（+2.18億円） ②吉野ヶ里歴史公園の入園者数（+27.7万人） ③宿泊施設やキャンプフィールドの宿泊者数（+4.44万人） ④交流拠点施設におけるイベント開催回数（+12回）	交流拠点施設イメージパース 	（交付金の具体的使途・実施体制）調整中 （効果検証） https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003100298/index.html